

英語



粕谷 恭子

東京学芸大学教授

2020年度版「JUNIOR
TOTAL ENGLISH」編集委員

子どもにも先生にも 「使いやすく」「楽しく」

2020年度から、いよいよ新学習指導要領が完全実施されます。どんな検定教科書がお目見えするか、楽しみにしていた先生方も多いことでしょう。

新学習指導要領に謳われている理念や内容を具現化する教科書とはどのようなものか、先生方の負担を軽減し、子どもたちが楽しく学びながら力をつけられる授業を可能にする教科書とはどんなものか、編集委員は経験を持ち寄り、知恵を絞りました。それが形になったものが、この JUNIOR TOTAL ENGLISH です。どんなチャームポイントを持った教科書なのか、ご紹介いたしましょう。

教科書の主な舞台は、ひまわり小学校です。いろいろな個性を持った30人の子どもの、日常的な場面をえがいた見開きの大きなイラストにご注目ください。言葉は日常生活の中で生まれるものです。「この子どもたちは何をしているんだろう？どんな話をしているんだろう？」と思わず想像してしまうことでしょう。その会話の内容をたっぴり音源に入れました。目標表現が使われている場面を、先生が一から作る必要はありません。子どもたちは、友だちの話を横で聞いているような気持ちで、豊かな英語のインプットを受けることができます。見開きの場面は、学校・家庭・町内・季節の行事など、子どもたちの生活に密着した場面ばかりです。その中で、自分のこと、日本の伝統行事のこと、時代を超えた世界の偉人のことなど、多岐にわたる話題が扱われます。

5年生のLesson 9を例に見てみましょう。(次ページ, p.6 参照) 中心的に使われる英語表現は、「I want to go to」です。見開きのページでは、子どもたちが行きたい国のことをにぎやかに話しています。お腹の痛そうな子もいます。この子はどこに行きたいと言っているのでしょうか。この見開きの絵を見ながら、音声を聞かせましょう(指導書や教材等で音声を提供されます)。続くページでは、見開きの中の一部を取り上げて、目標表現を使った会話を繰り返し聞ける音声があります。いろいろな子どもたちが行きたいところを話しているのを、リスニングさせる活動も入れました。さらに、聞いた音を文字として目で見て、指で追う活動を行ってから、えんぴつでなぞったり書き写したりします。



場面とあったたっぷりの英語を、心や頭を働かせながら聞くことで、子どもたちは英語の意味と音を結び付けていきます。日本語を英語に置き換えるのではなく、意味そのものを英語の音で味わうことで、英語が子どもたちの血となり肉となっていくます。

先生方もご自分の好きな色、将来の夢（定年後の夢？）、ご自分ができることなど、ご自分の肉声を英語で子どもたちに聞かせてあげてください。教科書の登場人物には親近感は湧いても、担任の先生の話聞く楽しさには及びません。心を込めて、目標表現をていねいに何回も聞かせてあげてください。

音声がかたまってきたら、子どもたちも自分のことを表現する段階にすすみます。目標表現を使って生き生きと話したくなる場面・状況は、子どもたちのことを深く理解している先生だからこそ考えられると思います。教科書にも、言語活動を行う場面が多く設定されていますが、クラスに合った場面や題材をどんどん取り入れてください。

意味が宿った音声に耳に慣れ、口に親しんだら、音声と文字を結び付ける段階に移ります。JUNIOR TOTAL ENGLISH では、文字が多い印象があるかもしれませんが、インプットが乏しければ豊かなアウトプットを期待できないのは、音声も文字も同じです。いきなりすらすら音読させよう、意味内容をつかませようとするのではなく、耳になじみ、唇に親しんだ音が、紙の上ではどのような姿をしているのか、しっかり結び付ける段階を保証します。えんぴつをにぎらせるのは、その後です。文字が入ってくると、個人差が目につくようになりますが、一人ひとり自分のペースで無理なく文字言語と仲良くできるよう JUNIOR TOTAL ENGLISH では、2年間を通して書く活動をゆるやかなステップで進める工夫をしています。勤のよい子だけでなく、どんな子も無理なく、聞くこと・読むこと・話すこと（やり取り）・話すこと（発表）・書くことの五つの領域を渡ってほしいという願いを込めての事です。各レッスンには、アルファベット自体に苦手意識を持っている子どもをおいて行かないために、楽しいアルファベット・コーナーを設けてあります。

教科になると、評価にも大きな関心が寄せられます。JUNIOR TOTAL ENGLISH では、各レッスン扉にそのレッスンの目標を記載しています。また、レッスン末には、親しみやすい自己評価欄を設け、自分の達成度や課題を確認できるようにしました。系統的で着実な指導にご活用ください。

教科書は作って終わりではありません。教室で使っていただいて、やっと命をふきこまれるのです。編集委員一同、先生方からのフィードバックを楽しみにしています。使ってくださった先生方とインタラクティブにやり取りしながら、良い授業づくりのために協力したいと思っています。この JUNIOR TOTAL ENGLISH が子どもたちの豊かな言語経験を支え、先生方の授業づくりの負担を少しでも減らすことができると信じています。



JUNIOR TOTAL ENGLISH 小学校英語

※詳しくはホームページをご覧ください。

特色①

小学校英語の基本は インプットから

子どもたちの身近な日常をイラスト化。各レッスンで、イラストを元に、状況説明のナレーションや子どもたちの会話を聞く活動をします。音声は指導書やデジタル教材のものを流すだけです。

目標表現を設定しました。3コマの絵を見ながら目標表現が入った会話を聞き、続く各活動で目標文の定着を図ります。3コマ絵のシーンは1枚絵の中の一部をフォーカスしています。



目標表現が入った生き生きした英語を聞く

特色②

スモールステップで 定着を目指す

4 技能 5 領域は段階を設けて展開します。①聞く→②聞いて繰り返す→③話す（やり取り・発表）→④読む・書くという順番で、各レッスンとも同じパターンで活動しますので、容易に活動できます。



目標表現を使い4技能5領域で活動

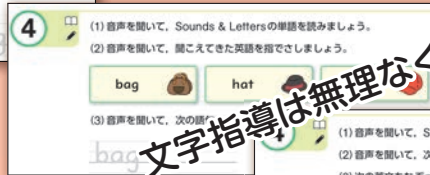
● 各レッスンのまとめの活動

各レッスンの Use & Check（まとめの活動）で学習状況を把握できます。

文部科学省新教材 “We Can!” のテーマと言語材料を
ベースに編集。既存のノウハウを生かして指導できます。

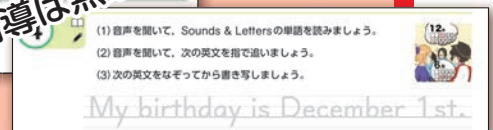


● 読み・書きも段階を踏んで



- 5年 L.1・2：アルファベットの読み書き
- 5年 L.3～6：文字の音への気づき・語句を指差し、なぞり書き
- 5年 L.7～10：文字の音への気づき・英文を指差し、なぞり書き
- 6年 全レッスン：文字の音への気づき・英文をなぞり書き

文字指導は無理なく

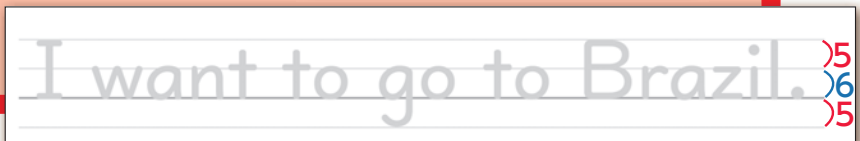


● 文字学習は自学ページで補充

文字学習を補充する意味で子ども達が自分で楽しみながら学べる Alphabet Corner を配当時間外として設けています。

● フォントはユニバーサルデザイン仕様

書き文字は中学校に上ってから違和感の出ない、上から5対6対5の縦幅の4線に収まる、We Can! とほぼ同じ UD 字形を採用しました。



特色③

子ども自身も学習内容を把握し、学習後振り返る

レッスンの目標

- 行きたい場所やその理由を伝え合う表現を聞き、言うことができる。また、行きたい場所やその理由を表す語句や文を読み、書き写すことができる。
- 自分が行きたい場所を、理由を入れて伝え、たずね合う。
- 自分から進んで、行きたい場所やその理由について伝え合う。

レッスンの目標で学習内容を確認し、Check Timeで振り返って、できたかどうかを自分でチェックします。

Check Time

Lesson 9 をふり返って当てはまる□に○を付けましょう。

- 行きたい場所やその理由を伝え合う表現を聞き、言うことができた。
- 行きたい場所やその理由を表す語句や文を読み、書き写すことができた。
- 行きたい場所やその理由を入れて伝え、たずね合うことができた。
- 自分から進んで、自分の行きたい場所やその理由を伝え合うことができた。

自分自身の課題を見つける



● 年2回のプロジェクト活動

年に2回のプロジェクト。プレゼン用のシートを作った発表活動で子ども達に達成感を与えます。